

令和3年度 学校評価アンケート集計結果

相馬支援学校長

1 重点目標について

各教科の資質・能力及び教科等横断的な視点に立った資質・能力を確実に育むため、各教科等における学びの連続性や各教科の関連を図った単元を展開する。

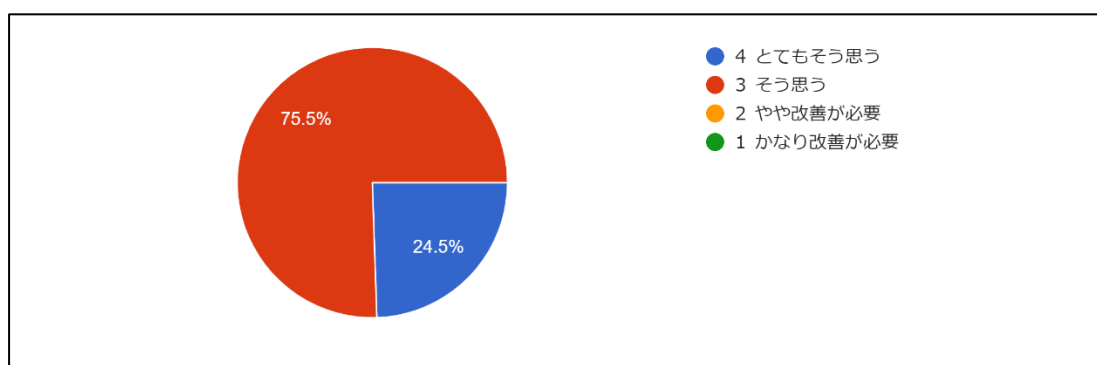
2 学校経営について 教員回答数【59名】 保護者回答数【88名】

(1) 学校経営運営ビジョン

<質問項目>

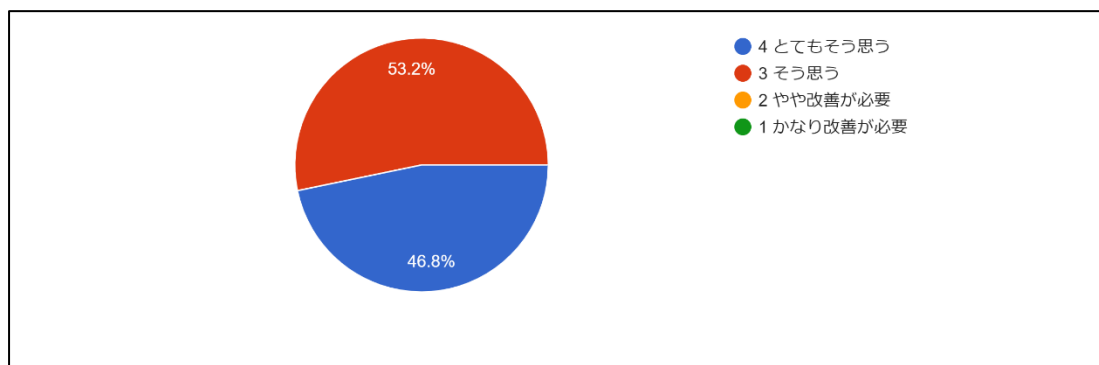
教員

学校経営・運営ビジョンの内容を理解し、人事評価の目標設定と関連させ、日頃から教育活動を行っている。



保護者

学校は学校経営・運営ビジョン、教育目標、教育活動をわかりやすく伝えていきますか。



<分析>

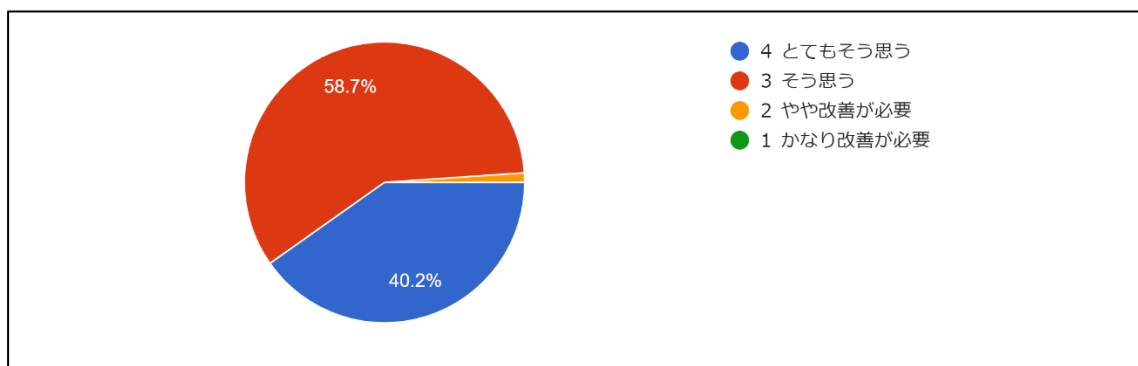
全ての教員と保護者が3、4と回答している。教員においては、人事評価の期首面談で学校経営・運営ビジョンと自己目標の関連を確認してきている成果が出ていると推測する。保護者については、授業参観時に配布している、授業参観ガイドや、相馬支援学校ナビへの掲載と配布で周知を図ってきた。今後も引き続き丁寧に、説明をしていきたいと考える。

(2) 学校経営について

<質問項目>

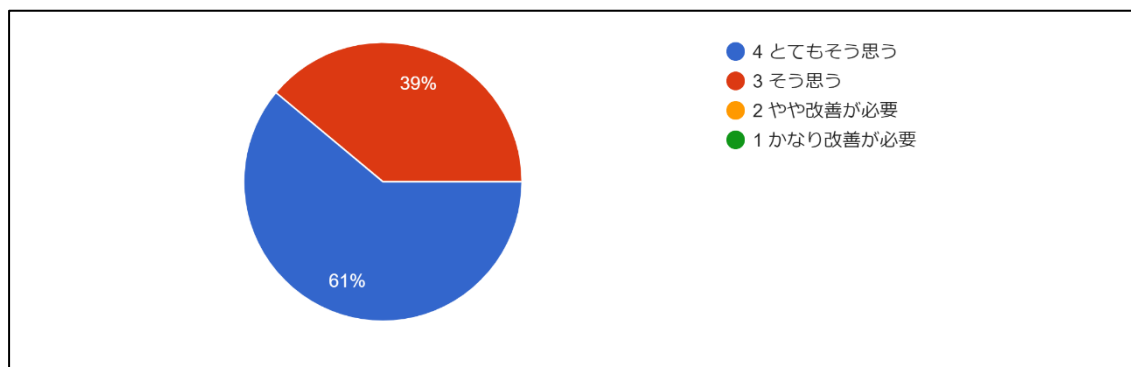
教員

学級、学年、学部等の教職員や保護者、関係機関と連携し、児童生徒一人一人を大切に
した指導支援を行っている。



保護者

学校は、教職員、保護者、関係機関と連携し、児童生徒一人一人を大切に
した指導支援を行っていますか。



<分析>

ほとんどの教員と保護者が3、4と回答している。今後は、学部間の連携を密にしなが
ら、学校として、より連携を密にしながら安心安全に留意して学校経営をしていきたい。

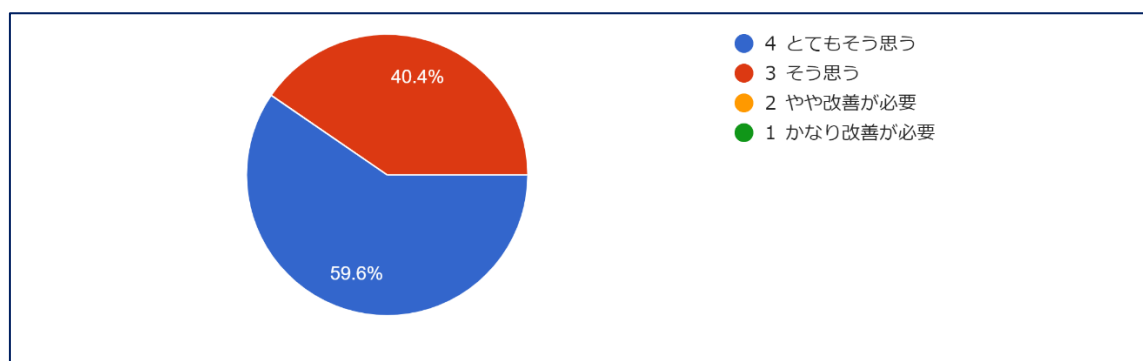
3 安心・安全

(1) 校舎内外の環境整備について

<質問項目>

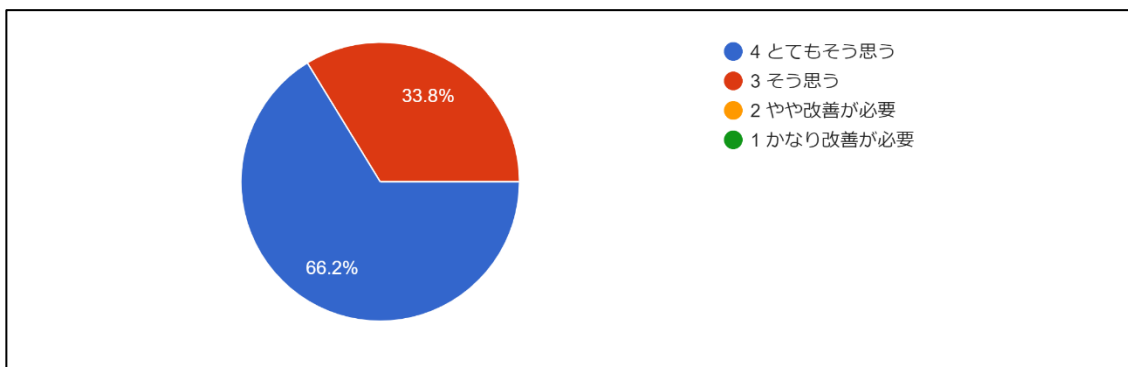
教員

校舎内外、教室等の環境整備に努め、異常箇所等があれば速やかに管理職に報告してい
る。



□ 保護者

学校は、校舎内外、教室等の環境整備に努めていますか。



<分析>

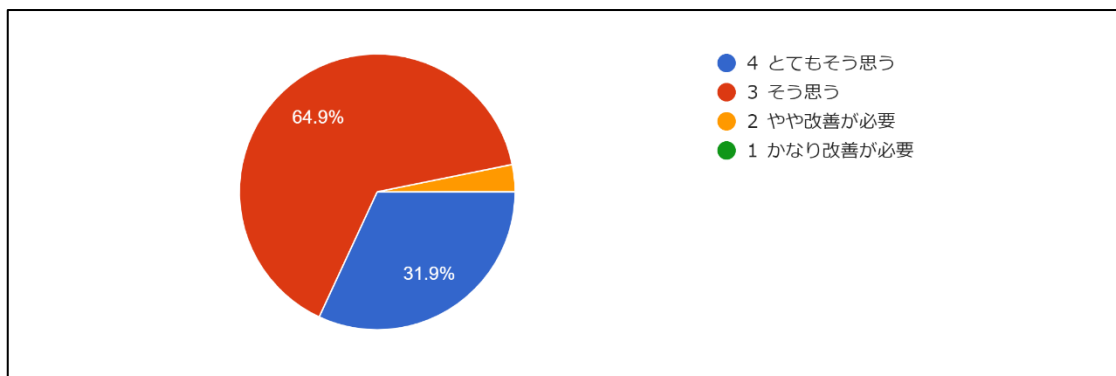
全ての教員と保護者が3、4と回答している。令和2年度の新築移転から、新しい校舎での教育活動が充実している。昨年度末、年度初めに強い地震があり、校舎内にひび割れ等も散見されたが、補修済みである。今後も、月に一度の安全点検を入念に実施し、校舎内外、教室環境の環境整備を行っていききたい。

(2) 新型コロナウイルス感染症対策について

<質問項目>

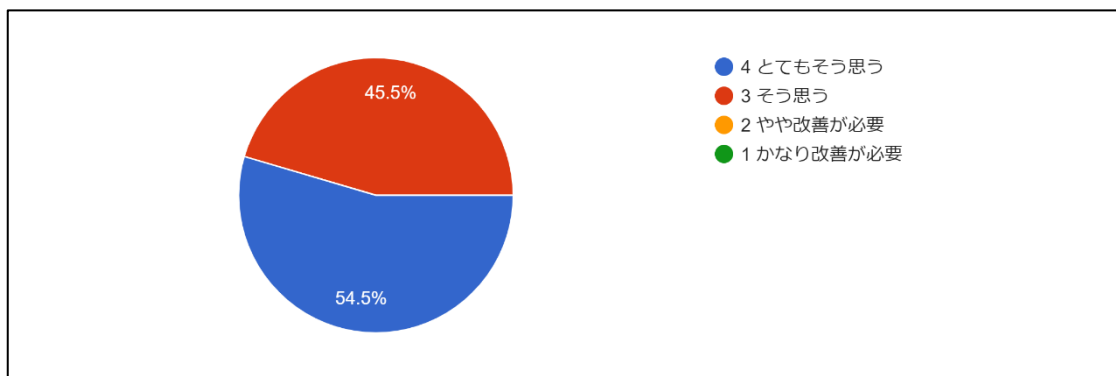
□ 教員

県から発出されている通知文の内容を知り、新しい生活様式を意識して、日頃から新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、学習活動に取り組んでいる。



□ 保護者

学校は、新型コロナウイルス感染症対策を万全にして、学習活動を実施していますか。



<分析>

ほぼ全ての教員、保護者が3、4と回答している。今年度は、夏場に第5波があったが、教員や保護者、関係機関と連携しながら、予防の徹底に努めた。また、毎日の体温・体調の確認や、児童生徒の発熱時の対応についても、新たにマニュアルを作成し、教職員全員でシュミレーションを行い、不測の事態に対応できるように準備をしてきた。教員の中には、児童生徒の手洗い、マスクの着用の指導支援に苦労があった記載もあった。今後も、県の通知文やマニュアルを参考に、新型コロナウイルス対策を万全にしていきたい。

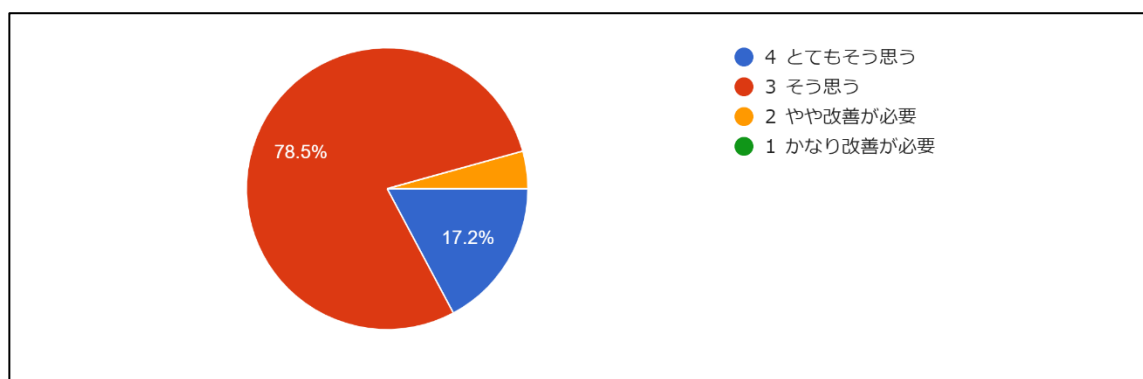
4 進路指導の充実

(1) 進路相談について

<質問項目>

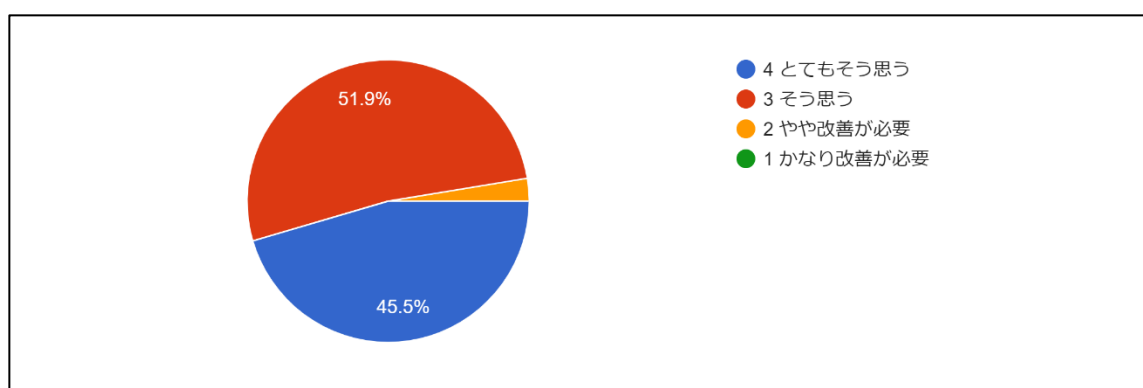
教員

学級懇談や個別懇談等で進路の手引きやキャリアパスポートを活用した進路相談を行っている。



保護者

学校は、進路の手引きやキャリアパスポートを活用した進路相談を実施していますか。



<分析>

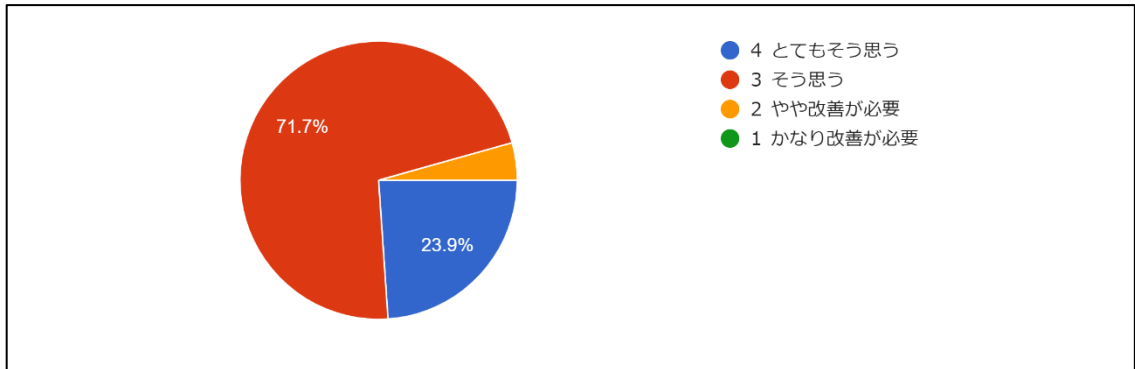
ほとんどの教員、保護者が3、4の回答をしているが、教員も保護者も数名が、2を選択しており、「進路の手引き」や「キャリアパスポート」の周知が課題と感じている。進路指導部を中心にしながら、「進路の手引き」や「キャリアパスポート」をより一層活用し、保護者や関係機関との連携を密にしながら丁寧に進路相談を実施していきたいと考える。

(2) 作業学習や産業現場等における実習について作業学習

<質問項目>

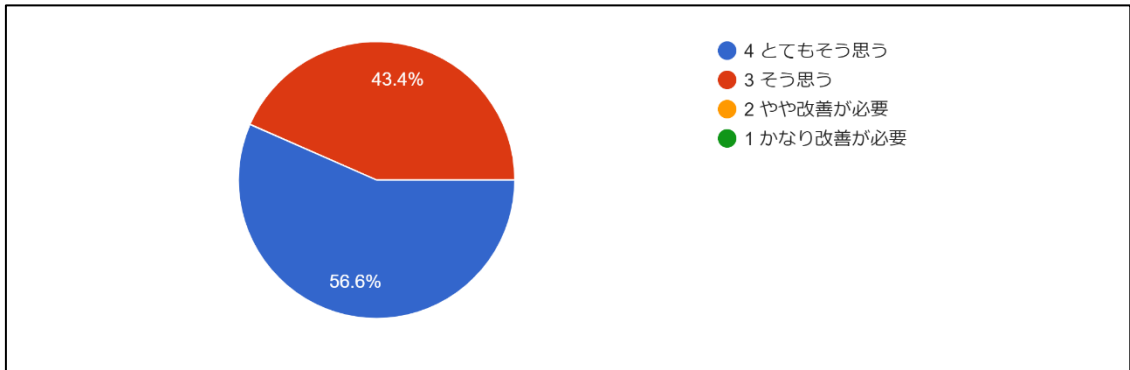
教員

作業学習や産業現場等における実習の指導内容を工夫して実施している。



保護者

学校は、作業学習や産業現場等における実習の指導内容を工夫していますか。



<分析>

全ての保護者は3、4と回答している。教員については、数名が2と回答している。各作業班での指導内容のバラツキについての記載があった。新学習指導要領において、「教科等を合わせた指導」については、指導内容を明確にする必要があり、「教科等を合わせた指導」の指導形態である作業学習については、課題が大きいと考える。今後は、校内の単元研究会等で「単元案」を作成し、学習評価を実施することで、作業学習や産業現場等における実習の指導内容等について精査をしていきたいと考える。

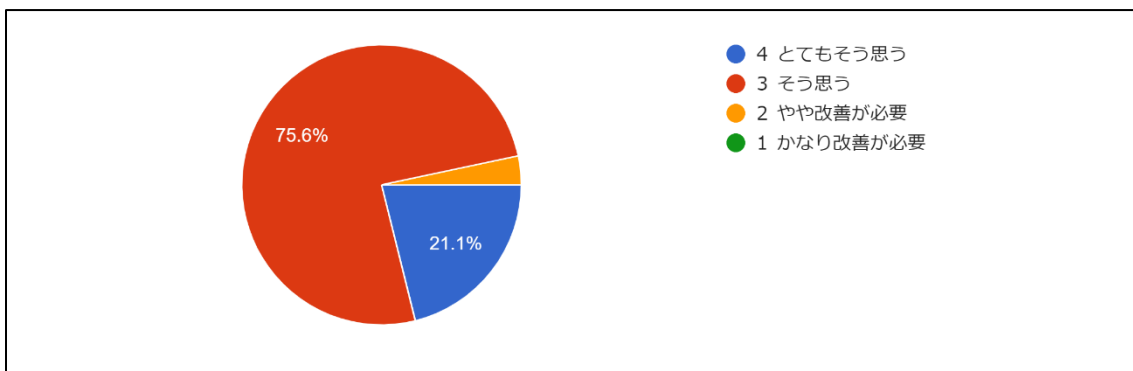
5 学習指導の充実

(1) 教育課程について

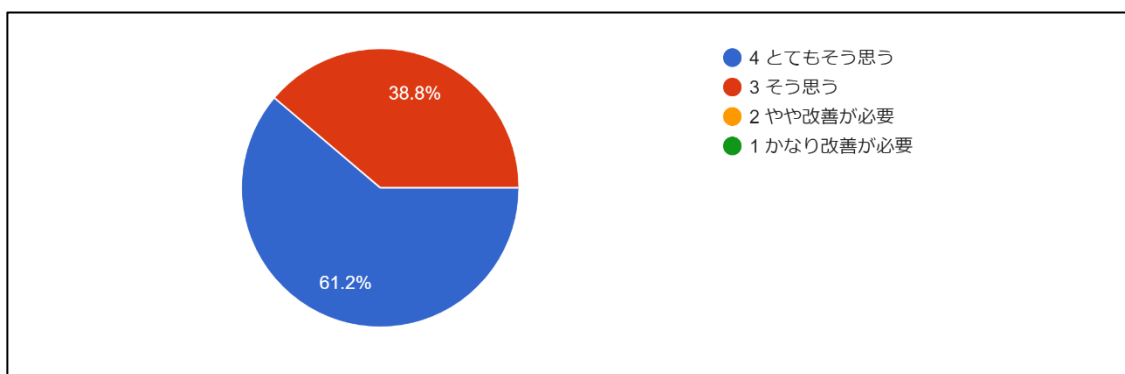
<質問項目>

教員

本人や保護者に個別懇談や学級懇談等で、児童生徒が履修している教育課程について説明をしている。



- 保護者
教職員は、お子さんが履修している教育課程について説明を行っていますか。



<分析>

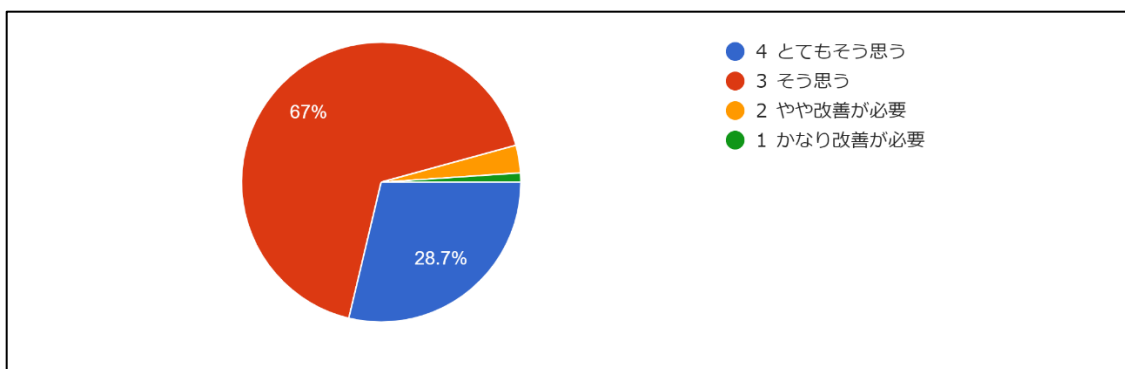
ほとんどの教員、保護者が3、4と回答している。教員の一部に、授業内容等について、さらに詳しい説明が必要との記載もあった。学習指導要領の改訂後、各教科等の指導内容がより具体的になってきている。具体的な学習内容を含めた丁寧な説明が必要と考える。

(2) 授業の充実

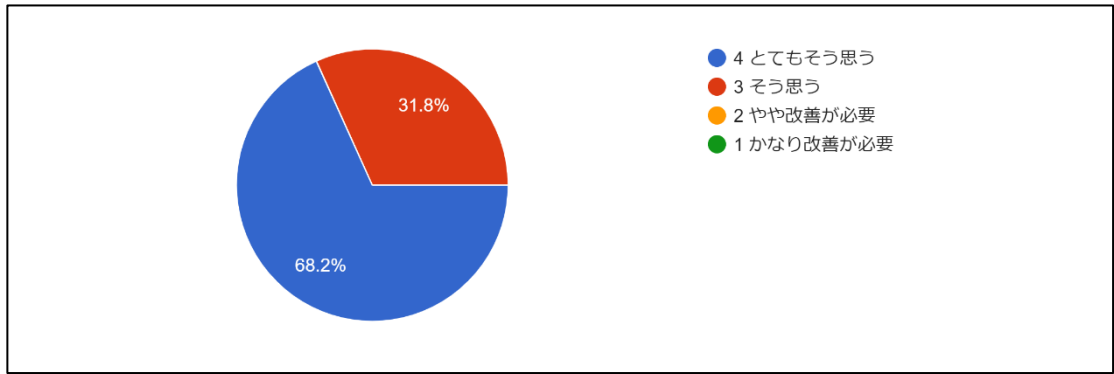
<質問項目>

- 教員

単元で各教科等の指導目標を明確にし、他教科等との関連を意識した「単元案」の作成、または共有して授業を行い、複数の教員で学習評価を行っている。また、それらのプロセスを経て、授業参観ガイドや通知表を作成している。



- 保護者
教職員は、お子さんが学んでいる授業についての目標や身につけさせたい力、授業の中での評価について授業参観ガイドや通知表、個別の指導計画等で伝えていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者は3、4と回答している。教員は、日々の授業の改善を意識し、1、2の回答もあり、辛めの自己評価となっている。特に「教科横断的な視点に立った単元のコントロール」に課題を感じていたり、学習評価について課題を感じていたりしていたようである。授業参観ガイドに負担感も感じている教員もいた。一方、保護者の評価は、ほぼ7割の保護者が4と回答し、高評価をつけている。今後も、教員の負担感を配慮し、業務削減等を行い、授業参観ガイドや通知表等を活用し、保護者に児童生徒の学校での学びを分かりやすく伝えていきたい。

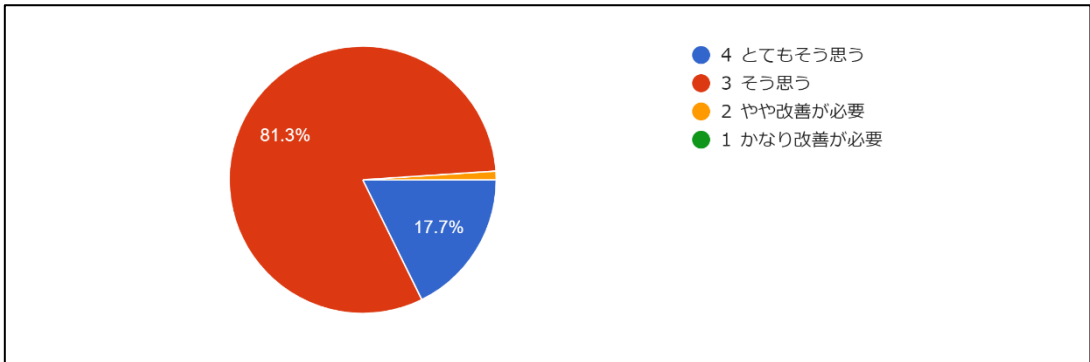
6 生徒指導の充実

(1) 児童会生徒会活動について

<質問項目>

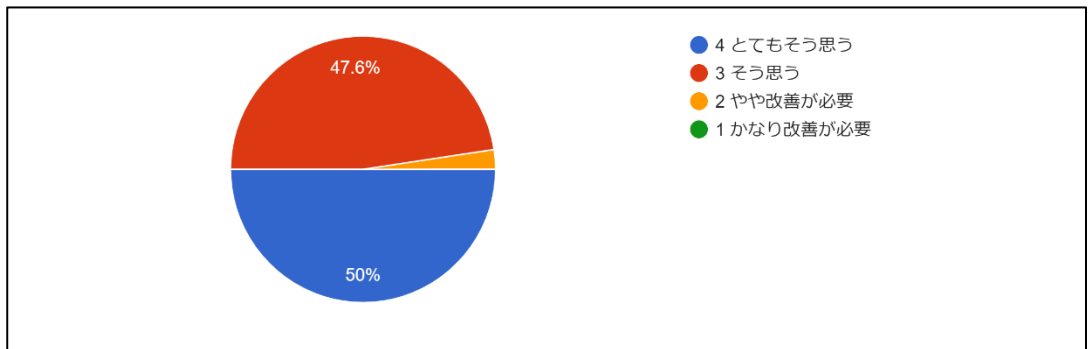
教員

児童会生徒会活動の目的や指導内容を理解し、生徒指導部や学部の教員と連携し、組織的に児童生徒の自主性や規範意識の育成を行うことができた。



保護者

学校は、児童会生徒会活動を充実させ、児童生徒の自主性や規範意識の育成に努めていますか。



<分析>

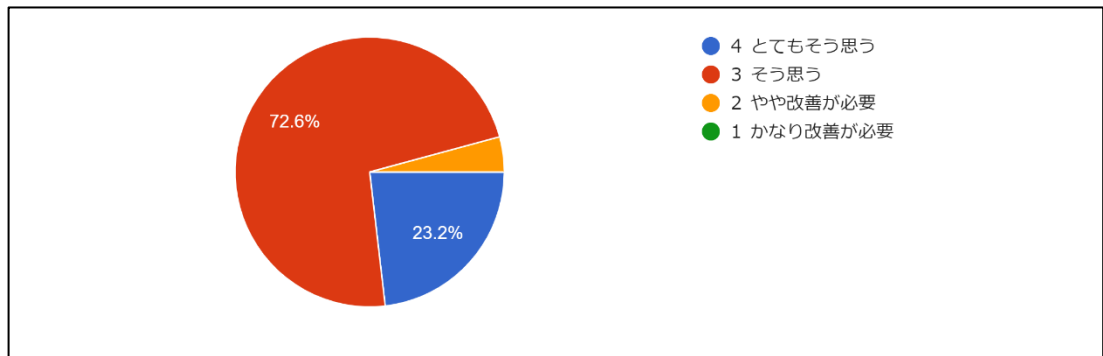
ほとんどの教員、保護者は3、4と回答している。教員の一部では、特別活動との関連や教育課程上の取扱等に疑問を感じていた。来年度の教育課程の編成作業では、特別活動の領域についての検討を行っている。また、保護者の一部からは、児童生徒会の取組についての情報が少ないとの意見もあった。今後はホームページ等で取組の発信をしていきたい。

(2) SNS、いじめ、性に関する指導について

<質問項目>

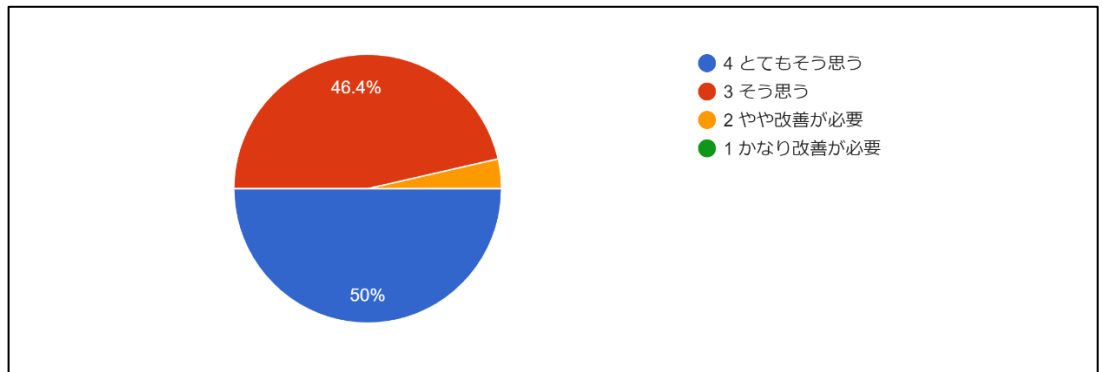
教員

生徒指導上の課題（SNS、いじめ、性に関するもの）に関して、生徒指導部と連携したケース会議や支援会議を積極的に実施し、複数の教員や関係機関と連携し問題行動の未然防止につなげることができた。



保護者

学校はSNS、いじめ、性に関する課題に関して、丁寧に指導支援を行っていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者が3、4と回答している。教員の一部では、ケース会議後の情報共有に課題を感じていた。ケースの内容にもよるが、情報共有を適切に行い、指導支援の方向性を丁寧に確認しながら指導支援を進めていきたい。また、保護者の一部から、取組の情報が少ないとの意見もあった。情報発信が可能なものについては、ホームページ等で紹介をしていきたいと考える。

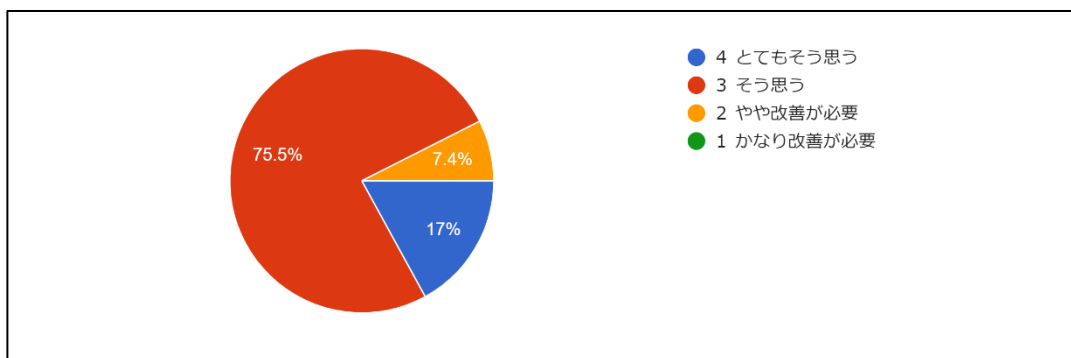
7 健康教育の充実

(1) 肥満指導、運動習慣、食習慣の改善について

<質問項目>

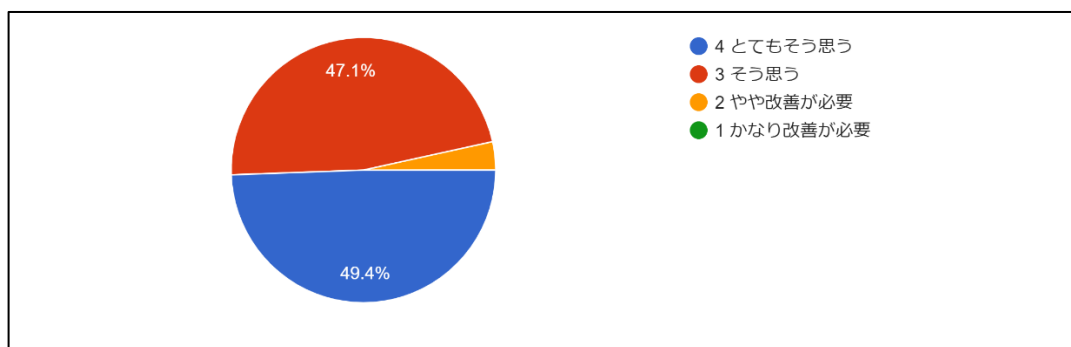
教員

保健部や家庭と連携して、継続的な肥満指導、運動習慣、食習慣の改善を行うことができた。



□ 保護者

学校は、継続的な肥満指導、運動習慣、食習慣の改善に努めていますか。



<分析>

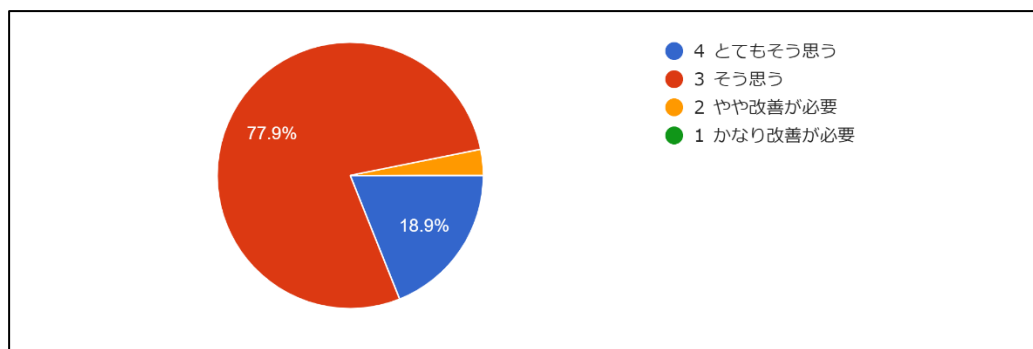
ほとんどの教員、保護者は3、4と回答している。しかし、教員も保護者も数名が2と回答している。教員も保護者も連携や、効果的な指導支援について困っている状況もある。肥満指導については、すぐに結果が出るものではなく、継続的な取組が必要ではないかと考える。本人、保護者、担任をサポートし、継続的で組織的に指導支援をしていきたいと考える。

(2) スクールカウンセラーを活用した教育相談体制について

<質問項目>

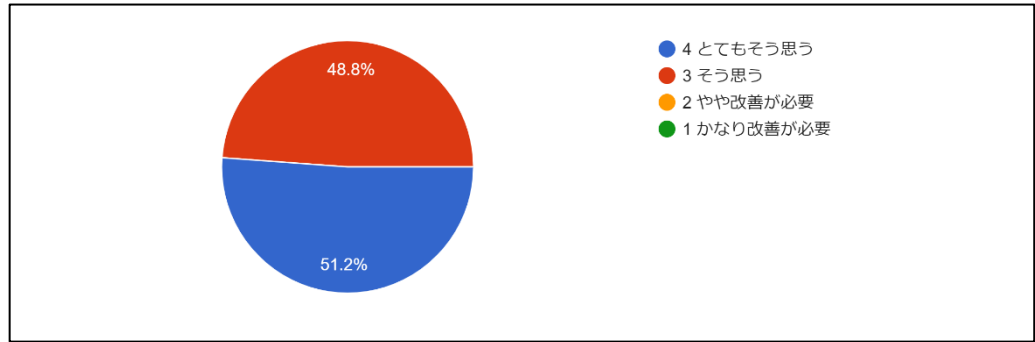
□ 教員

スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を活用し、家庭生活や学校生活では気づきにくい新たな側面を確認し、児童生徒理解につなげることができた。



□ 保護者

学校はスクールカウンセラー等を活用した教育相談体制を充実させ、心と体の健康づくりに努めていますか。



<分析>

ほとんどの教員、保護者が3、4と回答している。教員の一部からは、相談内容によっては、内容の共有や、スクールカウンセラーからのコンサルテーションの機会を設ける必要性が意見としてあがっていた。また、必要に応じてスクールカウンセラーを活用した授業提供も検討していきたい。今後は、教員が、カウンセリングマインドをもって児童生徒とのかかわりが展開できるようにしていきたいと考える。

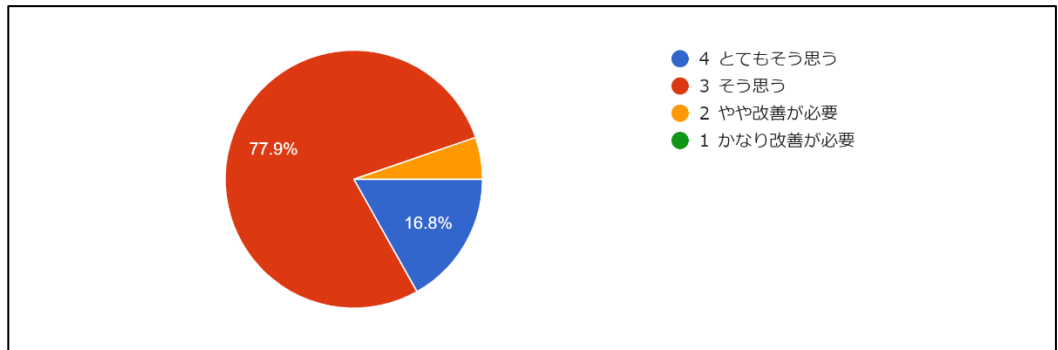
8 地域支援の充実

(1) 教育、福祉、医療、行政等との連携について

<質問項目>

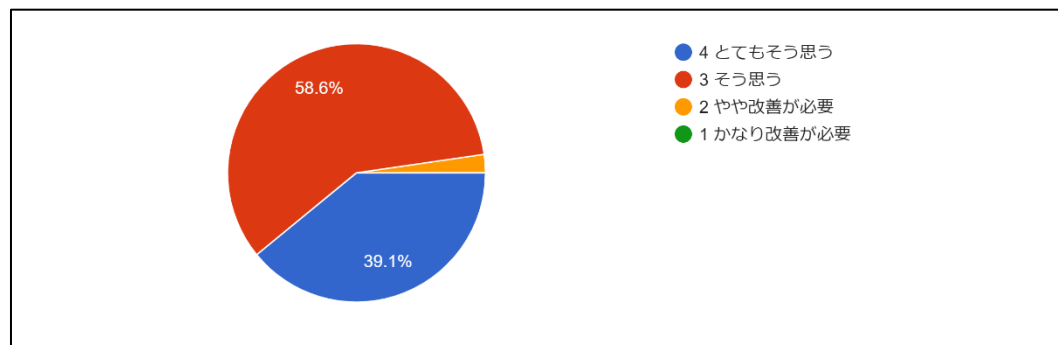
教員

地域の自立支援協議会の情報を共有の上、地域の教育、福祉、医療、行政等の取組を意識し、具体的な活動につなげることができた。



保護者

学校は、地域の教育、福祉、医療、行政等と連携を密にしていますか。



<分析>

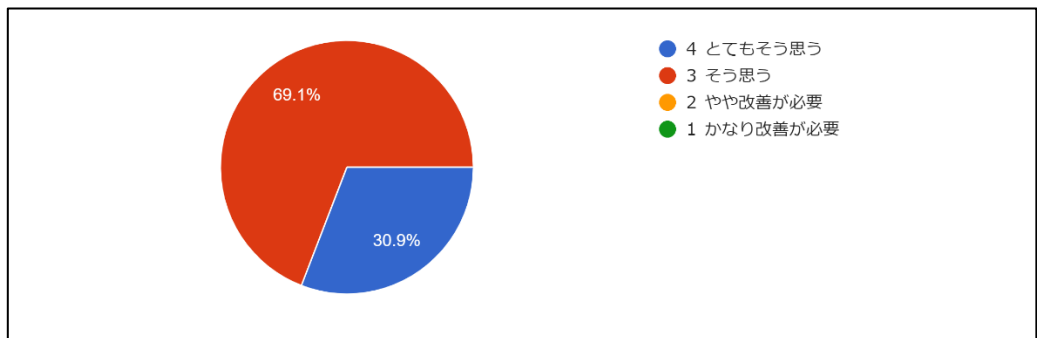
ほとんどの教員、保護者が3、4と回答している。2と回答している教員からは、教員間で地域の状況把握や情報共有が不十分ではないかという意見もあった。また、保護者からは卒後のアフターケアや事業所との連携についての課題があるという意見があった。今後も、自立支援協議会を中心として、連携強化にあたり、相双域内のネットワーク構築に力を入れていきたい。

(2) 地域の幼稚園、小中学校、高等学校の支援について

<質問項目>

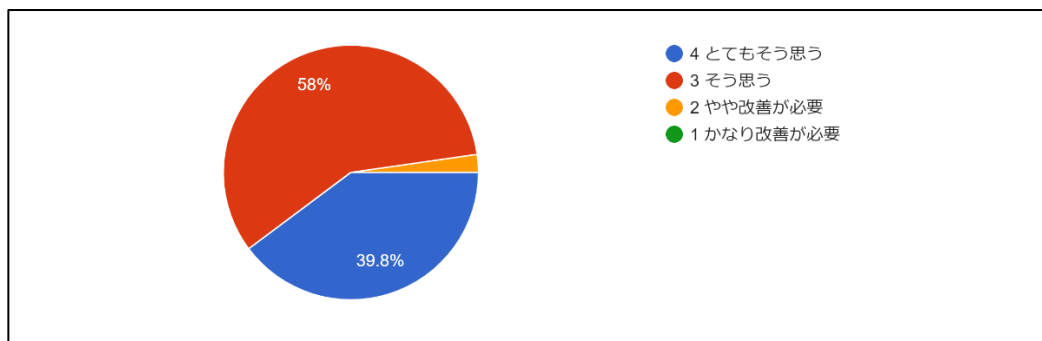
教員

学校は、研修会やセミナーを実施し、地域の幼稚園、小中学校、高等学校における指導支援の充実に努めている。



保護者

学校は、教員向けの研修会やセミナーを実施し、地域の幼稚園、小中学校、高等学校における指導支援の充実に努めていますか。

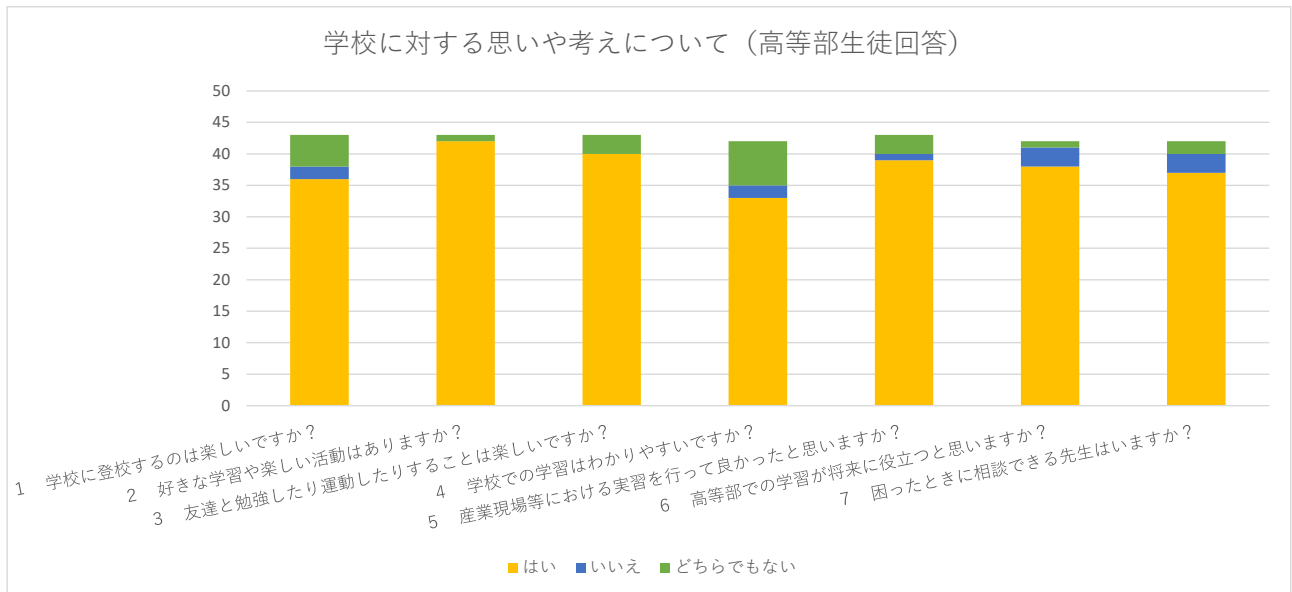


<分析>

ほとんどの教員、保護者は3、4と回答している。このコロナ渦においても、相馬地方特別支援教育研究会の一次研修会や12月の学校公開をオンラインで実施する等工夫を凝らして実施してきた。特に、12月の学校公開で、県内で多くの公開研究会が実施されている中で、多くの関係者が参加することができた。特に、学校公開では、文部科学省の調査官を講師として招聘したことで、最新の特別支援教育の関する知見に触れることができ、参加した教員からは、「充実した研修会だった」との感想があった。

9 高等部の生徒のアンケート集計結果 【回答 43】

(1) 学校に対する思いや考え



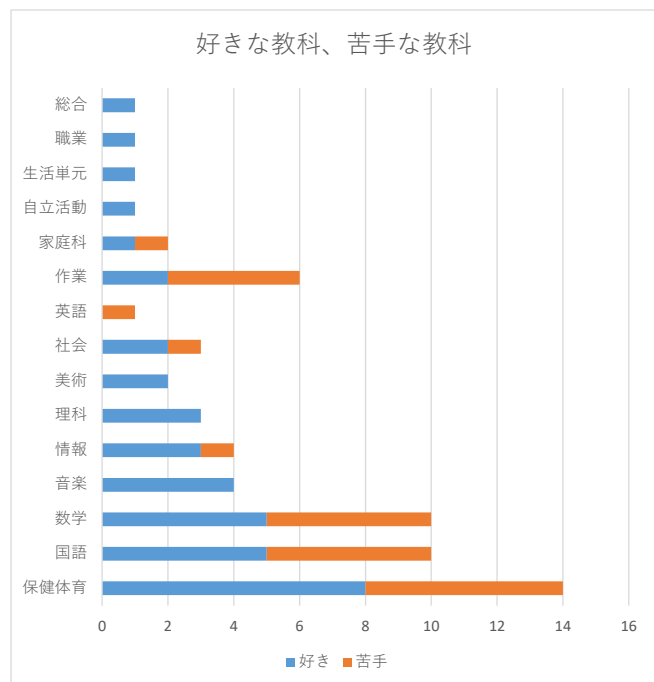
<分析>

ほとんどの項目で、「はい」と回答している。しかし、少数ではあるが、学校生活に対して、否定的な捉え方をしている生徒もいる。また、どの質問項目にも「どちらでもない」と一定数の人数が回答している。学校としては、様々な理由から、不安感を持っている生徒に対して、丁寧な指導支援をしていきたい。

(2) 好きな教科、苦手な教科

<分析>

好きな教科と同じ人数程度、苦手な生徒がいるという所が興味深いと感じた。保健体育、国語、数学、作業等は上記のような傾向である。また、音楽や理科にいたっては、苦手と回答する生徒がいなかった。この結果から、生徒の向学心や苦手意識が垣間見えた。この結果を、今後の学習指導に活かしていきたい。



(3) 「こんな学校にしたい」「こんな勉強がしたい」

<分析>

アンケートでは、「理科の実験がしたい」「歴史についての勉強したい」「社会の公民をしたい」と社会や理科の教科学習についての記述があった。本校では、教育課程で「社会」「理科」の教科学習を実施してきた。好きな教科にも「社会」「理科」と回答している生徒が複数名いるので、生徒の学習ニーズがあるのではないかと考える。来年度以降の「社会」「理科」の今日学習を充実させていきたい。また、「様々なことに挑戦したい」という記述も多く見られた。生徒の向上心を学校として支えていきたいと考える。

10 関係機関等のアンケート集計結果

No.	評価項目	4 とてもそう思う	3 そう思う	2 やや改善が必要	1 かなり改善が必要
1	学校は、関係機関と十分に連携をして、児童生徒の教育に努めている。	1	4		
2	学校は、児童生徒の課題について積極的に支援会議を開催し、関係機関と協力し課題解決に努めている。	2	2	1	
3	保護者から学校から作成・活用している「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の情報提供がなされている。		1	2	2
4	学校は、個別の教育支援計画に記載している合理的配慮の内容を確認、共有している。		3		2

<分析>

関係機関からは、十分に連携はとれているとの回答はあるが、連携の内容については、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」等の記載内容を共有しているとは言い難い結果となっている。また、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の利便性や活用のメリットが地域に浸透していないのではないかと考える。学校でも、地域支援センターを中心に、再度「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「相談支援ファイル」についての啓発を行っていききたい。そして、今後は支援会議や、保護者との懇談等で、保護者に「相談支援ファイル」等の活用を促し、本人、保護者の支援ニーズに寄り添った支援を関係機関と足並みを揃えて実施していききたいと考える。

11 全体を通して

教員、保護者の学校評価アンケートからは、ほとんどの質問項目で、3、4の回答で一定の評価をしていただいたと考える。ただ、2の回答の中には、連携や情報共有を課題にしていた。イントラネット、ホームページ、教員間のコミュニケーション等を工夫しながら、課題解決を進めていきたい。また、進路指導の充実では、「進路の手引き」「キャリアパスポート」の活用については、再度丁寧な説明をし、教員や保護者に周知をしていきたい。また、健康教育の充実では、スクールカウンセラーを活用したコンサルテーションを実施し、児童生徒の「心」の課題についても、丁寧に対応していききたいと考える。

地域支援の充実や関係機関との連携では、再度連携強化を目指し、自立支援協議会や市町村教育委員会ともコミュニケーションをとり、「障がいのある児童生徒の切れ目のない支援体制」の構築していききたい。

高等部の生徒のアンケートからは、教科学習について知的好奇心が覗える記述が多かった。生徒の実態に応じて、教育課程を更に整備していききたい。また、コロナ禍も長く続きストレスも大きいと考える。カウンセリングマインドを大切に、生徒への丁寧がかかわりを大事にしていききたい。